

実践報告

## “泉州 RUSH”プロジェクト報告・V

——大阪観光大学学生による地元地域活性化に向けた取り組み——

A Report on ‘SENSHU RUSH’ Project – V –

— An Approach to Revitalize Senshu Area made by the students of Osaka University of Tourism —

橋本 佳恵\*

HASHIMOTO Yoshie

Osaka University of Tourism is located in Senshu, the southern area of Osaka prefecture. In the summer of 2008, some of the University students started a project named “SENSHU RUSH”, and they tried to revitalize the area from their perspective of tourism. First of all, they opened a new lecture course about Senshu area. The course, with lecturers by the faculty teachers, local administrators and industry managers, was open also to the public. On the next step, in order to appeal the charms of the area, they planned and carried out excursion programs to visit some local sights. They also provided some events held there. This report shows what the students have achieved and how much they are contributing to the promotion of the area through the RUSH project.

キーワード：泉州 RUSH プロジェクト（The SENSHU RUSH Project）、泉州地域活性化（revitalization of Senshu area in Osaka prefecture）、学生による地域活性化貢献（students’ contribution of the regional vitalization）、協働事業（collaborative project）

### 1. 泉州 RUSH”プロジェクト活動概要

本論は、大阪観光大学学生有志による“泉州 RUSH”プロジェクト活動報告-V-である。前報告-IV-（「大阪観光大学紀要」第 17 号）後の 2016 年度から 2019 年度までの活動の概要を記す。

“泉州 RUSH”プロジェクトは、泉州地域で観光を学ぶ学生の視点で新たな地域魅力を発見し発信していくことを目標に、2008 年夏、筆者のゼミナール 7 期生が立ち上げたプロジェクトである。当ゼミナールではそれに先立つ 2006 年度頃から、当時の 5 期生らと共に主に南泉州地域でのフィールドワークを行っていたが、RUSH プロジェクトの発足により産官連携による活動が始まった。

2009 年 4 月には、地域連携講座「泉州観光学入門」を開講した。地域の観光資源や行政の取り組みについて学部学生が学ぶことを目的として、大学が立地する熊取町や隣接する泉佐野市、大阪府の観光行政担当者らをゲストスピーカーとして招き、一般にも公開した。この講座

の開講をきっかけとして、2010 年度には、泉州地域 9 市 4 町と大阪府および関西国際空港による「泉州プロモーション実行委員会」（当時）が推進する泉州広域プロモーション事業に参加する機会を得て、同委員会が実施する「泉州地域プロモーションバスツアー」に企画、広報、添乗補助などで協力した。学生の参加が好意的に受け入れられ、翌 2011 年度も継続となった。

熊取町においては、2010 年に「熊取町協働憲章」が策定され、翌年から住民提案による協働事業制度が始まった。RUSH プロジェクトは「観光交流を通じた地域のにぎわい創出事業」を提案し、2011 年度の協働事業として採択された。RUSH プロジェクトの提案事業は、翌年度、翌々年度も継続して採択され、「同一テーマ 3 年」の規定により 2013 年度に一旦終了した。2014 年度には、「地域活性化事業合意書」を取り交わし事業連携した。2011 年度からの 3 年間の取り組みに一定の評価をいただいたものと推察している。

2015 年度には、住民提案協働事業に「行政提案型」区

\* 共栄大学国際経営学部（※2018 年度まで大阪観光大学観光学部 非常勤講師）／観光ビジネス

分が新設された。町の企画部シティプロモーション推進課による「熊取町の魅力を内外に発信する事業」の協働実施者の募集があり、RUSH プロジェクトが応募、プレゼンテーション審査を経て採択され継続に至る。

## 2. 熊取町との協働事業

### (1) 熊取町住民提案協働事業への取り組み

前述の通り、熊取町では 2010 年に策定された「熊取町協働憲章」に基づき、2011 年度から行政と地域住民との協働による町づくりが推進されることとなった。泉州 RUSH プロジェクトは、町内に立地する大学で観光を学ぶ学生の視点で地域のにぎわい創出をテーマに交流事業提案を行い、住民部ににぎわい創造課と連携して事業を行ってきた。

2014 年 4 月には、町役場に企画部シティプロモーション推進課が開設され、それ以降、RUSH プロジェクトは同課の支援を受けて事業を推進している。

### (2) 「熊取プロモーションバスツアー」の実施

学生による地域情報の発信を目的とする着地型企画旅行「味わい泉州—熊取旬の旅—」バスツアー事業は、2011 年に始まった。本事業の最大の‘売り’は、学生の企画・案内で泉州の伝統産業や地場産品を紹介し、地域の魅力を発信することにある。2016 年度からは、町の転入促進施策に連動し、「親子の夏休み in くまとり」のテーマで継続している。

2016 年度は、天王寺を出発、町内の水なす畑で収穫体験、その後、野外活動ふれあい広場に向かい収穫した水なすで浅漬け体験、オープンしたばかりの永楽ゆめの森公園を紹介し、コミュニティーセンター煉瓦館で藍染め体験を行い、天王寺で解散という内容であった。参加者と学生が一緒になって地場野菜のバーベキューランチを楽しみ、熊取名物の里芋コロッケ“熊コロ”も試食いただいた。ツアーには親子連れを中心に 20 名の参加があった。

2017 年度は、引き続き親子連れに焦点を絞り、赤ちゃん連れのパパ・ママにゆったりバスツアーを楽しんでもいただける企画とした。各所で「赤ちゃんの駅」（おむつ交換や授乳のために自由に使用できるスペース）を案内、

町内でのアクティビティには保健師が同行した。赤ちゃん連れを含め 19 名の親子参加があった。

バスツアーは、毎年、7 月中旬から海の日前後の土曜日に実施してきた。2018 年については事情により 8 月中旬の金曜日で計画したが、申込みが最少催行人員に満たず見送りとなった。関係者で協議の結果、「芋ほり魚とり in くまとり」のテーマで 10 月に再度実施を目指すこととなった。

従来の夏のツアーでは水なすの収穫と浅漬けづくりを定番としてきたが、秋の実施ということで里芋の収穫体験を組み込むこととした。何より子どもたちが楽しめる企画として、川辺での水遊び（小魚獲り）や“こびり”（おやつタイム）を追加した。親子連れを中心に 27 名の参加があった。

毎回のツアーでは、熊取わたっ子クラブ、NPO グリーンパーク熊取、旬菜工房遊味、熊取町婦人会、野菜出荷協議会、JA 大阪泉州を始め町内の皆さんにお世話になった。お忙しい中、毎回、熊取町長がサプライズ登場下さった。町のマスコットキャラクター「ジャンプ君」と「メジナちゃん」の飛び入り参加もあった。参加者募集と当日の同行は、卒業生の縁で、株式会社クラウン観光交社が、ガイドや誘導は RUSH メンバーが担当した。ツアーアンケートによると、見学・体験・食事・学生の案内など概ね高評価をいただいている。

ツアー実施にあたって、毎回最も苦労したのが集客である。ポスター掲示やチラシの配布、フリーペーパーでの告知などを行ったが、ターゲットに向けた発信はなかなか難しい。さいわい新聞各社の記事や告知コーナーに取り上げられたことで、毎回、最終的にはなんとか実施人数に達し催行することができた。

新聞にツアーの告知文が掲載されたことがきっかけとなって、テレビの取材につながったことは大変嬉しいことであった。2016 年には関西テレビ、2018 年には NHK 大阪の密着取材があり、官学連携による地域活性化に向けた取り組みとしてそれぞれ放送された。

### (3) 地域交流イベント「大人の社会見学 in くまとり」の実施

日帰りバスツアーは地域外の方がたを主な対象としているが、「大人の社会見学 in くまとり」は熊取町の住民を

対象としている。地域住民による地域魅力の再発見、町民同士また町民と学生との交流の促進が目的である。2012・13 年度は「旬の熊取を五感で楽しもう」のテーマで、2014 年度からは「おとなの社会見学」をテーマとして実施している。

2016 年には、地域の和菓子工場とヨーグルト工場の見学、オープン間もない町の施設である「永楽ゆめの森公園」を視察、健康志向のこだわりの食を提供するレストランでランチを楽しんだ。21 名の町民の参加があった。

### 3. 地域連携「泉州観光学講座」の開講

2009 年度から、「泉州観光学講座」を開講してきた。座学とフィールドワークからなり、本学教員と泉州地域の行政や関係者によるオムニバス形式で展開されている。学内では正課としての位置づけで、毎年、留学生を含む多数の学生の履修があり、全 15 回のうち半数ほどを地域連携講座として一般に公開している。毎年、それぞれの回に 10 名程の一般住民の聴講があった。

フィールドワークは、講義で学んだことの応用として

学生が地域の歴史や文化財、伝統産業や地場産品などについて実地で学ぶことを目的に、担当教員の指導のもとで学生たち自身が企画を行い、期間中の土曜日に実施した。筍や玉葱の収穫体験、藍染め等伝統産業の体験、JA や漁協の見学、施設見学やボランティア活動などが組み込まれ、学生たちは楽しみながら地域についての理解を深めている。

2016 年度および 2017 年度の公開講座の内容は、表-1、表-2 の通りである。開講当初の地域からの講師は熊取町・泉佐野市のみであったが、回を重ねるごとに泉南市、岬町、阪南市などにも参加いただけるようになった。

講座情報は、大学のホームページ、町報、新聞の地域面や地元のフリーペーパーなどで告知されている。一般の聴講受付業務などの対応、フィールドワークの企画運営は主に RUSH メンバーが行っている。講義内容や学外実習、また、地域住民との交流は、協働事業として実施するプロモーションバスツアーに向けたプロジェクトメンバーの大きな学びの場となっている。

表一 1 地域連携「泉州観光学講座」(2016年度)

日程	テーマ	講師
第 1 回 (5/12)	「泉州観光学ことはじめ」	大阪観光大学名誉教授 中尾 清
第 2 回 (5/19)	「熊取町の観光資源と 取り組みー観光編ー」	熊取町企画部シティプロ モーション推進課推進グ ループ長 簀原大祐
第 3 回 (5/26)	「熊取町の観光資源と 取り組みー産業編ー」	熊取町住民ブ自治振興課 課長補佐 瀬野祐三
第 4 回 (6/2)	「泉佐野市の観光資源 と取り組み」	泉佐野市観光協会 事務局長 坂 隆
第 5 回 (6/9)	【特別講座】 「大学は観光資源にな りうるか？」	京都大学原子炉実験所 所長 川端祐司
第 6 回 (6/16)	「泉南市の観光資源と 取り組み」	泉南市市民生活環境部 産業観光課課長代理 水田好彦
第 7 回 (6/23)	「阪南市の観光資源と 取り組み」	阪南市市民部商工労働観 光課 辻野広二
第 8 回 (6/30)	「岬町の観光資源と取 り組み」	岬町まちづくり戦略室室 長 保井太郎

表一 2 地域連携「泉州観光学講座」(2017年度)

日程	テーマ	講師
第 1 回 (5/12)	「泉州観光学ことはじめ」	大阪観光大学名誉教授 中尾清
第 2 回 (5/19)	「岬町の観光資源と取 り組み」	岬町産業観光課観光推進 係長 岡田美和子
第 3 回 (6/2)	「泉佐野市の観光資源 と取り組み」	泉佐野市観光協会 事務局長 坂口隆
第 4 回 (6/9)	「阪南市の観光振興と 取り組み」	阪南市まちの活力創造課 主事 紺谷壮志
第 5 回 (6/16)	「熊取町ー熊取町のシ ティプロモーション」	熊取町企画部シティプロ モーション推進課推進グ ループ長 今里大介
第 6 回 (6/23)	「熊取町ー熊取町の観 光資源と取り組み」	熊取町産業振興課 商工観光振興グループ長 簀原大祐
第 7 回 (6/30)	「泉南市の歴史と観光 の取り組み」	泉南市産業観光課 課長代理 岡 一彦

#### 4. 新たな協働事業「くまとりブランドマップ」作成の取り組み

2018 年度には、町の産業振興課との協働事業として、地域のブランドマップ制作に取り組んだ。町内に新たな宿泊施設の開業が予定されているとのことで、地元住民にも旅行者にも役立つ、既存のものと“ひと味異なる”、学生目線のグルメマップを作成することとした。覆面調査や取材を踏まえ、学生お勧めのスイーツとベーカリー事業者 14 店舗を紹介する「くまとりグルメマップ part 1 スイーツ & ベーカリー編」として完成に至った。part 1 としたのは、制作中に次年度再度のブランドマップ事業提案が採択され、シリーズ化することが決まっていたことによる。

2019 年度には、「くまとりグルメマップ part 2 こだわりランチ編」として、地場産品や健康に配慮した食材を使用するなど、こだわりのランチを提供する 18 事業者を紹介するマップを作成した。グルメマップ作成にあたっては、縁あって、関東の大学生、初年度は 4 名、翌年度は 10 名が実地調査に加わった。

人口約 4 万 4 千人、面積 17.24 平方キロメートルほどの町とはいえ、閉店や廃業、移転など、事業者のリストアップに苦戦したが調査ではほぼ全店舗を網羅できた。それぞれの理由で取材に応じていただくのが難しかったり、掲載を希望されない事業者もあり、企画側の意図だけで進展しないことを学んだ。

手にとったり開いたりしやすいサイズや折り方、店舗レイアウトや全体のデザインについて、大いに議論がなされ、特に初年度は、全般について試行錯誤の繰り返しであった。2019 年度は、2018 年度と同一のイメージで作成した。結果として、両年分とも、当初の想像以上に魅力的に仕上がったと自負している。

#### 5. 最後に

協働事業がきっかけとなって、地域と様々な連携を図ってきた。町の会議に、学生代表として RUSH メンバーが参加する機会も数多くいただいた。「熊取食のブランド創造会議」には柳澤詠美が、「熊取町ふれあい農業祭」には有馬知佳と根岸新一郎が、「くまとりイルミネーショ

ン実行委員会」には柳澤詠美と西岡敬馬が、それぞれ学生代表として出席した。

RUSH プロジェクトの活動については、毎年、本学の「明光祭」において報告を行っている。2016 年には、特に「大学コンソーシアム大阪」地域連携学生フォーラムにおいても、官学協働による地域プロモーションバスツアー事業について発表の機会を得た。

毎春、約半数のメンバーが入れ替わりながらも、常時 10 名ほどの学生が RUSH プロジェクトにかかわってきた。2017 年度以降は、ゼミナールの枠を越えて希望する学生たちが参加し活動を担っている。本稿の対象となる期間には、柳澤詠美、有馬知佳、仁科優、ミンタンダーウー、ポーピュインピューチョウ、ティティチー、澤誠人、西岡敬馬、ジョンミンツー、沼田康介、白井将、根岸新一郎、八木大貴、田原茉奈美、梶本拓雅、木戸恵大、湯浅眞也、スレイトウ、チャンティホアントウ、阿南拓磨、海堀凌矢、櫻井拓生らが参加した。バスツアーのポスターデザインは卒業生の蔵満顕太郎さんが、ブランドマップのデザインは本田真智子さんがそれぞれプロジェクトと連携下さった。

発足から 12 年、地元自治体や地域住民の方がたの支援のもと、地域をフィールドとして実践的な活動を継続することができた。かかわった学生たちには、常に活発な議論と主体的な取り組み、学年を超えた連携があった。RUSH プロジェクトの活動は 2019 年度をもって終了する。十分な地域貢献とはいかなかったが、わずかながら誇れるところがあるとすれば、期間を通して学生たちが常に真摯に取り組んだことである。

#### 【謝辞】

「熊取町住民提案協働事業」実施にあたって熊取町から補助をいただいた。

「地域ブランドの発見・開発事業」にあたり、大阪観光大学 2019 年度研究ブランディング事業補助をいただいた。大阪観光大学観光学部長 橋弘文先生には格別のご支援とご配慮をいただいた。大学職員の黒田能史さん、富永啓子さん、岩宗未美さんには大変お世話になった。

RUSH プロジェクトの活動にあたり、大阪観光大学および地域関係者の皆さまに大変お世話になった。

ここに付して、心より感謝申し上げます。

資料 1

**熊取町体験ツアー**  
熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

2016.7.8. 読売新聞

**熊取移住のきっかけに**  
バスツアー企画  
町と大阪観光大  
子育で定住に熊取町移  
る親子を対象とした  
バスツアーは、熊取町の  
魅力を伝えるだけでなく、  
熊取町大との協働事業で、  
熊取町大の学生が、熊取  
町の魅力を伝えることに  
取り組んでいる。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

2016.7.13. 産経新聞

**大阪観光大が地元でツアー**  
テーマは「転入促進」  
大阪観光大の学生が主  
眼点の「親子の夏休みinくまどり」  
バスツアーは、熊取町の  
魅力を伝えるだけでなく、  
熊取町大との協働事業で、  
熊取町大の学生が、熊取  
町の魅力を伝えることに  
取り組んでいる。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

2016.8.16. 観光経済新聞

**熊取町の魅力を発信**  
親子で参加 バスツアー企画  
熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

2016.7.1. 毎日新聞

**熊取楽しむバスツアー**  
15日 観光大生と魅力発信  
熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

2017.7.2. 読売新聞

**いま 日帰りバスツアーがうれしい!**  
レアなスポット巡りから 地域の人たちのふれあいまで  
日帰りバス旅行は、観光名所を巡るだけではなく、  
地域の魅力を伝えるだけでなく、  
熊取町大との協働事業で、  
熊取町大の学生が、熊取  
町の魅力を伝えることに  
取り組んでいる。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

**旅行代理店などによる 発地型の企画 (一例)**  
豪華バスで行く日帰りツアー  
熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

熊取町は23日、定住促進を  
目指し、町の魅力を発信する  
ツアー「親子の夏休みinくまどり」  
を、市内の各施設で開催する。

日本フルハップ機関誌 2017 年 4 月



資料2 プロモーションバスツアー ポスター



2016 年度



2017 年度



2018 年度

資料3 くまとりグルメマップ°



2018 年度



2019 年度



## 資料4

## 1. プロモーションバスツアー



関西テレビ同行取材風景(2016年)



NHK 大阪同行取材風景(2018年)



RUSH

マスコットキャラクター

## 2. おとなの社会見学



## 3. 泉州観光学講座



## 4. フィールドワーク



## 5. その他

